

男子部員2人の挑戦

僕らが継ぐ 伝統の音色

鴻巣市の県立鴻巣高校箏曲部にこの春、大きな変化が起った。部員1人で休部寸前だった同部に、新入生が加入したのだ。「箏(こと)の合奏ができる」と喜んだのは2年生の大木凱斗(かいと)部長(16)。そして入部したのは1年生の男子生徒、佐藤光輝(みつき)さん(16)。2人は伝統楽器の響きにほれ込み、「全国大会を目指す」と練習に励んでいる。男子部員のみ箏曲部は県内で珍しいという。

(小出菜津子)

鴻巣高校 箏曲部

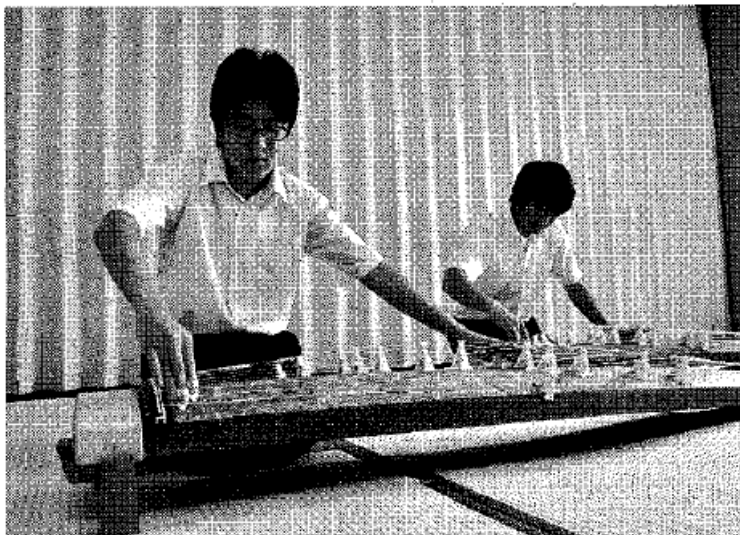
箏は弦が13本の伝統楽器。当時1年だった大木さんは新入生歓迎会で、箏曲部が披露した演奏に「心を打たれて」入部。3年の女子2人と大木さんの計3人で練習していたが昨年秋、3年生は引退。約半年にわたる1人での部活は心細かったが、伝統を感じる音色に魅了され、「すくく楽しい。辞めようと思ったけど一度もない」ときっぱり。佐藤さんは昨年8月、鴻巣高校の学校説明会で箏曲部の演奏を聴いた。「面白そうと思

目指すは「全国大会」

2人は放課後、毎日数時間練習。夏休み中も週3回程度は部活を行っている。顧問の荒木海(はるか)教諭は「少人数だと、だたらする生徒もいるのに、2人は本当に熱心」と感心した様子。

県高等学校文化連盟の邦楽邦舞専門部が把握する箏曲部を持つ県内の高校は36校。男女別のデータはないが、事務局長で県立浦和第一女子高校の板谷大介教諭によると「女子が9割以上を占めており、男子のみの部は見たことがない」とする。

県内の主な大会は年2回で、うち11月は全国大会につながるコンクール。審査員が技術・芸術性を採点し、上位2校が日本音楽の甲子園と位置づけられる「全国高等学校総合文化祭」に出場できる。物静かな容貌に熱いハートを持つ大木さん。力強い演奏が持ち味の佐藤さん。全国大会を目標に掲げ、2人は練習に励む。11月の大会は演奏だけでなく地唄を付けた弾き語りにもしようと奮闘中だ。大木さんは「男子2人、歌ってインパクトを残してやろう」と思っている。眼鏡の奥がきらりと光った。



箏を演奏する大木凱斗部長(左)と佐藤光輝さん
—県立鴻巣高校